

# 検査情報月報



2011  
2011  
9 月

横浜市衛生研究所

# 平成23年9月号 目次

## 【トピックス】

夏期食品収去検査 .....	1
----------------	---

## 【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査委員会報告 平成23年8月 .....	4
------------------------------	---

## 【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報(平成23年8月分) .....	9
-------------------------------	---

# 夏期食品収去検査

夏期食品等一斉点検は厚生労働省医薬食品局食品安全部長から出された「平成23年度食品、添加物等の夏期一斉取締りの実施について」の通知に基づき、夏期に多発する食中毒等食品による事故防止と食品衛生の確保を目的に全国一斉に実施されました。

本市においては平成23年6月1日から8月31日まで夏期取締り期間と定め、一斉点検を行いました。そのうち、食品専門監視班と福祉保健センターによる収去が平成23年6月13日から7月26日まで実施され、当所が行った細菌検査と理化学検査の結果について報告します。

## 1 細菌検査

細菌検査の内訳は、乳等に関しては牛乳・乳製品・アイスクリーム類など23検体32項目(表1)、乳等を除く他の食品に関しては魚肉ねり製品・食肉製品・そうざいなど119検体295項目(表2)でした。

検査項目は、主に各品目の規格基準<sup>\*1</sup>や衛生規範<sup>\*2</sup>について行いました。また、非加熱食肉製品(生ハム)についてはリステリア・モノサイトゲネスの検査を加えて行いました。

検査の結果、衛生規範不適が2検体(2項目)あり、内訳は生めん1検体がE.coli陽性(基準は陰性)、未加熱処理のそうざい(サラダ)1検体が生菌数超過(260万/g ; 基準は100万/g以下)でした。

\*1 規格基準とは、食品及び添加物について食品衛生法第11条により基準、規格を定めたもののことです。

\*2 衛生規範とは、弁当、そうざい、漬物、洋生菓子及び生めん類についての衛生的な取り扱い等を示した指針のことです。

【 検査研究課 細菌担当 】

## 2 理化学検査

搬入された207検体(輸入品104検体、国産品103検体)の食品について食品添加物等の検査を行いました。今回は肉卵類加工品、穀類加工品、野菜類・果物加工品、菓子類、清涼飲料水、かん詰・びん詰食品などを重点に、保存料、着色料、甘味料、酸化防止剤など2,606項目の検査を行いました(表3)。

その結果、違反は4検体で、その内訳は着色料に指定外添加物(オレンジⅡ)を使用した菓子1件、保存料(ソルビン酸カリウム)を過量使用したたくあん漬1件、乾燥食肉製品の成分規格(水分活性)に違反した乾燥食肉製品1件、着色料の表示違反のリキュール1件でした。その他の検体はいずれも食品衛生法に適合していました。

【 検査研究課 食品添加物担当 】

表1 細菌検査結果（乳等の収去検査）

平成23年7月

食品区分	検査検体数	検査項目数	不適検体数	不適理由
乳				
牛乳	1	2	0	
特別牛乳	1	2	0	
乳製品				
乳飲料	1	2	0	
クリーム	1	2	0	
ナチュラルチーズ	14	14	0	
アイスクリーム類・氷菓				
アイスマルク	2	4	0	
氷菓	3	6	0	
合 計	23	32	0	

表2 細菌検査結果（乳等を除く）

平成23年7月

食品区分	検査検体数	検査項目数	不適検体数	不適理由
魚介類加工品				
魚肉ねり製品	9	9	0	
肉・卵類及びその加工品				
非加熱食肉製品	8	32	0	
加熱食肉製品(加熱後包装)	4	12	0	
加熱食肉製品(包装後加熱)	1	3	0	
馬肉	2	4	0	
穀類及びその加工品				
生めん	21	63	1	E. coli 陽性
ゆでめん・むしめん	11	33	0	
餃子・ワンタンの皮	1	3	0	
菓子類				
洋生菓子	2	6	0	
菓子類(その他)	1	3	0	
清涼飲料水				
ミネラルウォーター	6	8	0	
ミネラルウォーター(未殺菌又は未除菌)	5	13	0	
果汁入り飲料	6	6	0	
炭酸飲料	7	7	0	
清涼飲料水(その他)	6	6	0	
その他の食品				
弁当類(加熱処理品)	2	6	0	
そうざい類(加熱処理品)	25	75	0	
そうざい類(未加熱処理品)	2	6	1	生菌数超過
合 計	119	295	2	(2項目)

【 検査研究課 細菌担当 】

表3 理化学検査結果

平成23年6～7月

大分類	検 体 数	違 反 検 体 数	項 目 数	検 査 項 目								
				保 存 料	着 色 料	甘 味 料	酸 化 防 止 剤	漂 白 剤	発 色 剤	重 金 属 類	そ の 他	
魚介類加工品	9	0	82	27	54			1				
肉卵類及びその加工品	22	1	201	66	111				22			2
乳製品	1	0	4	4								
乳類加工品	1	0	17	3	12		2					
アイスクリーム類・氷菓	7	0	84	9	61	14						
穀類及びその加工品	25	0	45	6	13			1				25
野菜類・果実及びその加工品	29	1	324	87	194	30	3	10				
菓子類	33	1	486	48	338	50	50					
清涼飲料水	28	0	589	234	290	57					8	
酒精飲料	9	1	73	27	36		5	4				1
かん詰・びん詰食品	23	0	350	78	228	19	19	6				
その他の食品	20	0	351	90	219	25	15	2				
合 計	207	4	2606	679	1556	195	94	24	22	8		28

【 検査研究課 食品添加物担当 】

# 感染症発生動向調査委員会報告 8月

## 《今月のトピックス》

- 手足口病は依然として流行していますが、ピークは越え、減少傾向となりました。
- ヘルパンギーナが4区で警報レベルですが、減少傾向が続いています。
- マイコプラズマ肺炎が全国的に流行しており、横浜市内でも注意が必要です。

## 全数把握疾患

### <細菌性赤痢>

2件の報告がありました。どちらも菌種はShigella sonneiです。渡航先(インド、中国(上海))での感染です。

### <腸管出血性大腸菌感染症>

7件(O157 VT1VT2が5件、O157 VT2が1件、O121 VT2が1件)の報告がありました。また、同一家族内での発生が2件ありました。例年夏季に感染者数のピークを迎えるので9月も引き続き注意が必要です。

啓発用チラシ「O157に注意しましょう」

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf>

### <デング熱>

1件の報告がありました。渡航先(タイ)での感染が推定されています。デング熱は、蚊が媒介する感染症で突然の発熱で始まり、激しい頭痛、眼球深部の痛み、関節や筋肉痛、発疹を特徴とします。近年、日本では年間発生数が増加傾向にありますが、すべて日本国外での感染で、タイ、インド、インドネシア、フィリピン、ミャンマー、ラオス、カンボジアなどでの感染が多く報告されています。デング熱が発生している国々では、虫よけスプレーの使用など、蚊に刺されない対策が必要です。最近の発生状況の動向については、国立感染症研究所ホームページ「[デングウイルス感染症情報](#)」をご覧ください。

### <マラリア>

2件の三日熱マラリアの報告がありました。2件ともインド人で、1件はインド(ムンバイ:旧ボンベイ)での感染が推定されています。もう1件では感染地域経路等不明でした。

### <レジオネラ症>

肺炎型1件の報告がありました。感染経路は調査中です。

### <アメーバ赤痢>

腸管アメーバ症3件の報告がありました。1件は日本国内での同性間性的接触、もう1件はインドネシア(ジャカルタ)での経口感染が推定されています。残る1件は感染地域経路等不明でした。

### <後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)>

5件の無症候期の報告がありました。4件は国内での同性間接触、1件は感染地域、経路とも不明でした。

### <梅毒>

1件の早期顕性梅毒(I期)の報告がありました。国内での異性間接触によるものです。

<バンコマイシン耐性腸球菌感染症>

2件のVanC型の報告がありました。どちらも胆汁からの検出ですが、異なる医療機関からの報告です。

<風しん>

1 件の成人例の報告がありました。予防接種歴不明で、風しんIgM 上昇を認めています。

<麻疹>

10代の臨床診断例、20代の検査診断例(麻疹IgM 4.85)の2件の報告がありました。いずれもワクチン接種歴が1回ありました。感染経路感染地域等は不明です。麻疹は、重篤な症状を引き起こしたり、時には死にいたる疾患です。対象年齢児への確実な予防接種の実施が望まれます。

※各感染症については、横浜市衛生研究所HPをご参考ください。

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/>

**定点把握疾患**

平成23年7月18日から8月21日まで(平成23年第29週から第33週まで。ただし、性感染症については平成23年7月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成23年 週一月日対照表

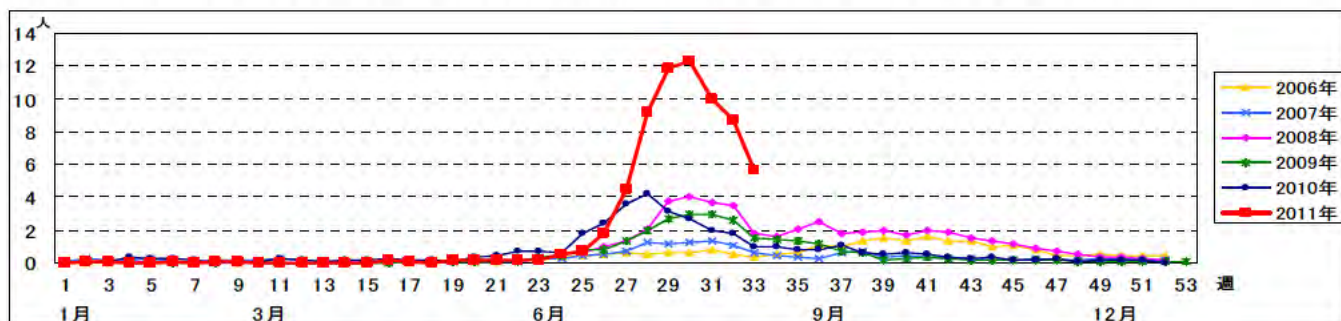
第29週	7月18日～24日
第30週	7月25日～31日
第31週	8月1日～7日
第32週	8月8日～14日
第33週	8月15日～21日

1 患者定点からの情報

市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か所、眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:3か所の計201か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

<手足口病>

6月から西日本で流行が始まり、横浜市内でも16年ぶりとなる大流行となっています。第33週でも15区で警報レベルとなっていますが、横浜市全体ではピークの第30週12.30から第33週5.69と半分以下に減少しました。近隣の自治体でも第33週では、県域(横浜、川崎、相模原市除く)5.75、川崎市6.54、東京都4.17と減少傾向です。なお、手足口病の原因ウイルスは、CA16やEV71が一般的ですが、今回の全国的な流行ではCA6が多く検出されており、横浜市でも、病原体定点からCA6が検出されています。



静岡県の報告<sup>1)</sup>によると、今年CA6が検出された手足口病では、発熱率が高い、発疹が手掌や足底にはむしろ少なく、上腕・大腿部および臀部に高頻度に認め、口囲や頸部周辺にも認める等の特徴が指摘されています。CA6による手足口病では、罹患1～2か月後の爪甲脱落症も報告<sup>2),3)</sup>されています。また、CA6感染による重症例も報告<sup>4)</sup>されているので、引き続き注意が必要です。(詳しくは下記ホームページをご参照ください。)感染経路は飛沫感染、接触感染、糞口感染であり、乳幼児への感染予防は手洗いの励行と排泄物の適正な処理が基本です。

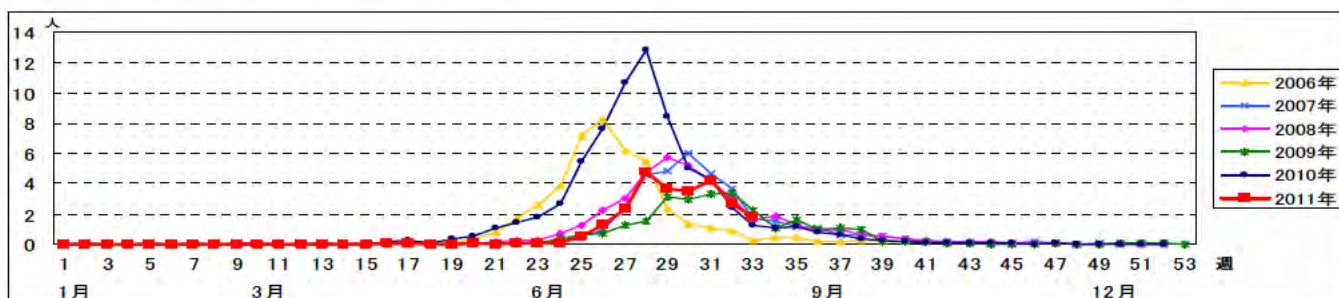
- 1) IASR<速報>2011年のコクサッキーウイルスA6型感染による手足口病の臨床的特徴—静岡県 <http://idsc.nih.go.jp/iasr/rapid/pr3784.html>
  - 2) 浅井俊弥. 手足口病に続発した爪甲脱落症. 皮膚病診療 2011;33(3):237-240.
  - 3) IDWR 第28号<注目すべき感染症> <http://idsc.nih.go.jp/idwr/kanja/idwr/idwr2011/idwr2011-28.pdf>
  - 4) IDWR IASR<速報>心肺停止患者の咽頭ぬぐい液からのコクサッキーウイルスA6型(CA6)の検出と県内CA6の検出状況—鳥取県 <http://idsc.nih.go.jp:80/iasr/rapid/pr3793.html>
- 参考: 衛生研究所 H.P.手足口病について <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/handfoot2.html>  
 参考: 衛生研究所 H.P.手足口病 臨時情報 <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinj/hfmd/hfmd201131w.pdf>  
 参考: 衛生研究所 H.P.手足口病 市民向けパンフレット <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/hfmd201107.pdf>

### <咽頭結膜熱>

第33週では、緑区2.25で警報レベルとなっています。横浜市全体では第31週0.43、第32週0.26、第33週0.26と落ち着いています。

### <ヘルパンギーナ>

第33週では、港北区2.57、緑区6.75、青葉区3.17、瀬谷区3.67と4区で警報レベルとなっていますが、横浜市全体では、下記のグラフのように減少傾向です。第33週では、県域(横浜、川崎、相模原市除く)2.89、川崎市2.57、東京都2.15となっています。

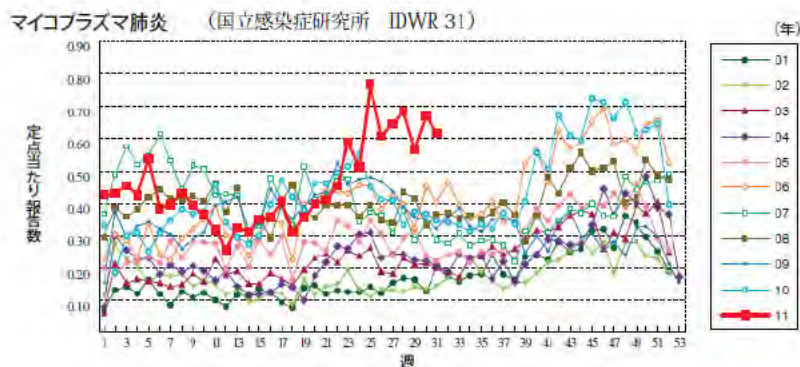


### <性感染症>

7月では、性器クラミジア感染症は男性が23件、女性が13件でした。性器ヘルペス感染症は男性が2件、女性が9件です。尖圭コンジローマは男性3件、女性が1件でした。淋菌感染症は男性が10件、女性が2件でした。

### <基幹定点週報>

マイコプラズマ肺炎が全国的に第24週頃から増加傾向にあり、注意が必要です。横浜市でも第22週から33週まではほぼ毎週数件ずつ報告されています。7月は無菌性髄膜炎が29週に5～9歳で1件、31週に10～14歳で1件ありました。細菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。





### < 基幹定点月報 >

7月は、メチシリン耐性ブドウ球菌感染症7件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

## 2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:9か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:3か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

### < ウイルス検査 >

8月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点51件(鼻咽頭ぬぐい液50件、ふん便1件)、基幹定点12件(鼻咽頭ぬぐい液4件、髄液3件、気管吸引液、全血、血清、尿、ふん便各1件)、眼科定点1件(眼脂)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は手足口病14人、上気道炎10人、下気道炎10人、ヘルパンギーナ8人、発疹症4人、胃腸炎3人、手足口病とりんご病1人、咽頭炎と結膜炎1人、基幹定点は流行性耳下腺炎2人(2検体)、発疹症1人(4検体)、感染性腸炎と心筋炎1人(2検体)、無菌性髄膜炎1人(1検体)、脳炎1人(3検体)、眼科定点は急性結膜炎1人でした。

9月13日現在、小児科定点の手足口病患者1人とヘルパンギーナ患者1人からコクサッキーウイルス(Cox)A16型、上気道炎患者1人からアデノウイルス2型、上気道炎患者1人からCoxB1型、下気道炎患者2人からRSウイルス、下気道炎患者1人と手足口病患者1人からアデノウイルス(型未同定)が分離されています。

これ以外に遺伝子検査では、小児科定点の手足口病患者8人(このうち1人はアデノウイルス分離陽性)、ヘルパンギーナ患者1人、胃腸炎患者1人からCoxA6型、ヘルパンギーナ患者1人、咽頭炎と結膜炎の患者1人からアデノウイルス3型、手足口病患者1人からCoxA16型、ヘルパンギーナ患者1人からCoxA10型、手足口病とりんご病の患者1人からCoxA10型とヒトバルボウイルスB19型、基幹定点の発疹症患者1人からヒトヘルペスウイルス6型、感染性腸炎と心筋炎の患者1人からCoxA6型の遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

【 検査研究課 ウイルス担当 】

### < 細菌検査 >

8月の感染性胃腸炎関係の受付は小児科定点から1検体、基幹定点から菌株受付が20件、定点以外の医療機関等からは12件あり、赤痢菌、腸管病原性大腸菌、腸管出血性大腸菌、腸管毒素原性大腸菌、サルモネラが検出されました。

溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体受付は小児科定点から7件で、A群溶血性レンサ球菌(血清型はT4、TB3264)、インフルエンザ菌、肺炎球菌が検出されました。定点以外の医療機関等からは23件で、B群溶血性レンサ球菌(血清型はNT6)、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌が検出されました。

表 感染症発生動向調査における病原体検査(8月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	8月			2011年1月～8月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
赤痢菌			2		3	4
腸管病原性大腸菌		3			6	
腸管出血性大腸菌			9			30
腸管毒素原性大腸菌		2			4	
パラチフスA菌					3	
サルモネラ			1		15	5
カンピロバクター						3
黄色ブドウ球菌					1	1
コレラ菌						1
クロストリジウム						1
不検出	1	15	0	3	60	4

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	8月			2011年1月～8月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌 T1				7		
T3				4		
T4	1			4		
T12				8		
T25				2		
T28				4**		1
T B3264	2			10		
型別不能				2		
B群溶血性レンサ球菌			6			12
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌		1	16		5	16
バンコマイシン耐性腸球菌						15
<i>Achinomyces</i>						1
<i>Branhamella</i>				1**		
<i>Legionellapneumophila</i>						6
インフルエンザ菌	2			8**		
肺炎球菌	1			5**		
不検出	1	0	1	9	2	5

\*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

\*\* : 同一検体から複数菌検出

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】

# 衛生研究所WEBページ情報

(アクセス件数・順位 平成23年7月分、電子メールによる問い合わせ・追加・更新記事 平成23年8月分)

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成23年7月のアクセス件数、アクセス順位及び平成23年8月の電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については総務局IT活用推進課から提供されたデータを基に集計しました。

## 1 利用状況

### (1) アクセス件数 (平成23年7月)

平成23年7月の総アクセス数は、193,622件でした。主な内訳は、感染症57.9%、食品衛生12.9%、保健情報11.9%、検査情報月報7.3%、生活環境衛生2.4%、薬事1.2%でした。

### (2) アクセス順位 (平成23年7月)

7月のアクセス順位(表1)は、第1位が「手足口病について」、第2位が「衛生研究所トップページ」、第3位が「マイコプラズマ肺炎について」でした。

第1位は、「手足口病について」でした。手足口病(hand,foot,and mouth disease:HFMD)は、口腔粘膜及び手や足等に現れる水疱性の発疹を主症状とした急性ウイルス性感染症であり、乳幼児を中心に主に夏季に流行する疾患です。国立感染症情報センターの報告によりますと、今年の手足口病の定点当たりの報告数は、第28週(7月11日～

7月17日)に11.0となり、1982年に感染症発生動向調査が開始されて以来最多の報告数となり、その後は第29週(7月18日～7月24日)以降減少が続いているが、過去5年間の同時期と比較してかなり多い報告となっています。今年も、本市でも16年ぶりの大流行となり、市内の定点当たり報告数は、第30週(7月25日～7月31日)の12.30をピークに、減少傾向となってきています。また、手足口病の病原体ウイルスは、主にコクサッキーウイルスA16(CA16)、エンテロウイルス71(EV71)ですが、今年も、コクサッキーウイルスA6(CA6)が全国的に多く検出されています。感染経路は飛沫感染、接触感染、糞口感染であり、保育園や幼稚園などの乳幼児の集団生活施設での感染予防対策は、手洗いの励行と排泄物の適正な処理です。

第2位は、衛生研究所トップページでした。

第3位の「マイコプラズマ肺炎について」は、年間を通じて常にアクセス件数が多く、毎月上位にランクインしています。国立感染症情報センターの報告によりますと、マイコプラズマの定点当たり報告数は、第27

表1 平成23年7月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	手足口病について	18,759
2	衛生研究所トップページ	4,385
3	マイコプラズマ肺炎について	4,050
4	熱中症(熱射病、日射病)を予防しましょう	2,462
5	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	2,424
6	サイトメガロウイルス感染症について	2,403
7	クロストリジウム・ディフィシル感染症	2,037
8	感染症情報センター	1,857
9	アデノウイルス感染症について	1,801
10	水痘(水疱瘡)・帯状疱疹について	1,562

データ提供:総務局IT活用推進課

週(7月4日～7月10日)、第28週(7月11日～7月17日)と2週連続増加しましたが、第29週(7月18日～7月24日)に一旦減少し、第30週(7月25日～7月31日)には、0.67と増加しており、過去5年間の同時期と比較してかなり多い報告が続いています。

第4位には、「熱中症(熱射病、日射病)を予防しましょう」が入りました。

### (3) 電子メールによる問い合わせ (平成23年8月)

平成23年8月の問い合わせは、6件でした(表2)。

表2 平成23年8月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
家庭用井戸水の検査について	1	感染症・疫学情報課(検査研究課に確認後)
見学の希望について	1	感染症・疫学情報課(管理課に確認後)
ヒトパレコウイルスの検出状況について	1	検査研究課ウイルス担当
多剤耐性アシネトバクター資料の転載許可	1	感染症・疫学情報課
「屋内プール水中の臭素酸および塩素酸調査」別刷り依頼	1	検査研究課水質担当
アメーバ赤痢について	1	感染症・疫学情報課

### 2 追加・更新記事 (平成23年8月)

平成23年8月に追加・更新した主な記事は、7件でした(表3)。

表3 平成23年8月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
8月 3日	感染症に気をつけよう(8月号)	追加
8月 3日	アスペルギルス症について	追加
8月 4日	熱中症(熱射病、日射病)を予防しましょう	更新
8月 5日	紫外線と皮膚・眼について	更新
8月11日	手足口病の発生状況	更新
8月12日	野兔病について	更新
8月30日	熱中症情報	更新

【 感染症・疫学情報課 】